

九州地区における水稻慣行収獲法の地域性とその成立要因に関する研究（要旨）

立野, 喜代太
九州地区大学農学部附属農場

庄崎, 豊一
九州地区大学農学部附属農場

石川, 忠美
九州地区大学農学部附属農場

中釜, 明紀
九州地区大学農学部附属農場

他

<https://doi.org/10.15017/14123>

出版情報：九州大学農学部農場研究資料. 4, pp. 44-45, 1977-06. 九州大学農学部附属農場
バージョン：
権利関係：

九州地区における水稲慣行収穫法の地域性とその成立要因に関する研究（要旨）

九州地区大学農学部附属農場 立野 喜代太
 庄崎 豊一
 石川 忠美
 中釜 明紀
 古賀 茂男

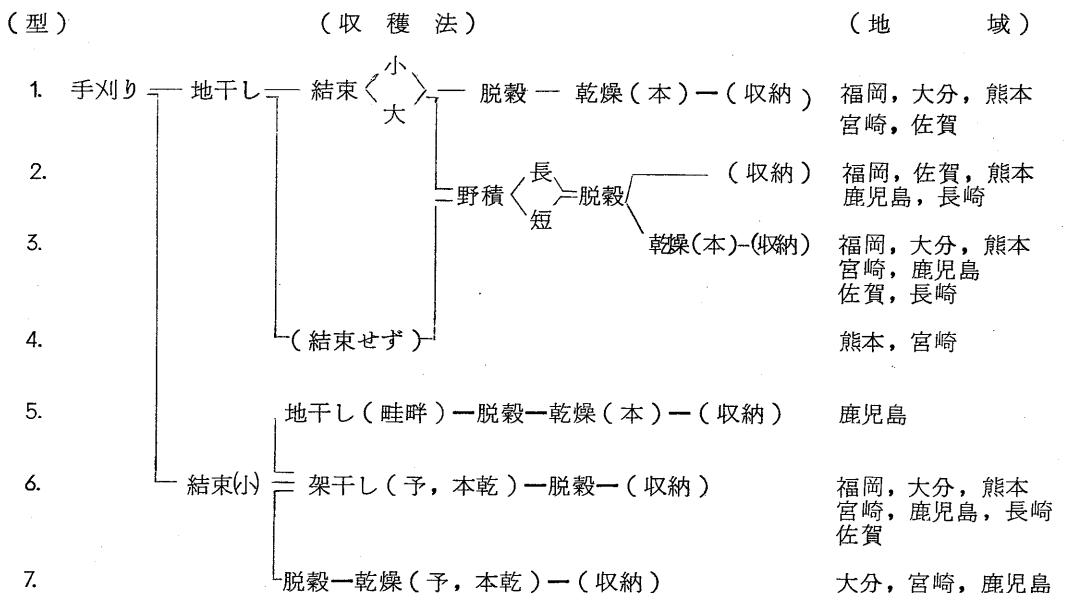
1. 土質および気象

九州の主な水田地帯は海岸平野および干拓地が主で、河川によって運搬された土砂が堆積して、高い生産力を示している。第3紀層の筑豊、唐津、佐世保などの炭田地帯に広がる水田は、石炭採掘による鉱害、地すべりなどの問題を抱えている。また、中古生層からなる九州中央山地の山間部には、壤質土壌の人吉盆地のほかは、深い谷底や緩斜面を利用したわずかな水田がみられる。さらに、シラス台地を切りとって谷地田として南九州の一带に広がっている。

九州は温暖多雨地帯に属し、年間降水量は国東半島が1500mm程度である以外は、北九州で2000mm前後、南九州では2500～3000mmに達している。しかし、雨の降り方は梅雨期と台風時期に集中しており、水稲の収穫時期は比較的晴天に恵まれ、日射しも強い。

2. 調査結果の概要

(1) 収穫法の類別：九州地区の慣行収穫法はおよそ次の7型に類別することができる。



(2) 収穫法の特徴：1) 地干しによる予備乾燥が行なわれること。乾田地帯で九州全般にわたって行なわれるもので、土地の乾きがあまり良くないところでは、刈り始め、または最後の株を高刈り（約10cm程度）にして、その上に刈取った稲の根本をのせ、通気を良くして、わらや籾の乾燥を促している。2) 野積みによる予乾や本乾燥（長期）が行なわれること。野積みは地域の風土や歴史的な条件を背景にして色々なやり方がある。①丸小積（としゃくとも言う）。②十字小積（佐賀地方では四方小積という）。また、これの変型で三方小積、八方小積など。③舟小積（佐世保市外佐々町、鹿児島の一部にみられる）。④10把、12把、および20把小積など（大束）。⑤山型または台型小積（主に小束）。⑥円形立て、その他がある。3) 大束結束には「むすで」が用いられる。地干しした稲は150株程度を1まとめにして結束する。地方によって「いいぜ」（大分）、「いなで」（宮崎）とも呼ばれる。4) 早期栽培地帯では特種な収穫法がある。手刈り、結束後、ただちに脱穀し、乾燥したのち収納する方法（7型）や、手刈り後、12株程度の小束に結束して、畦畔などで地干した後、脱穀、乾燥、収納する方法（5型：沖永良部、大島地域）などがみられる。

水稲慣行収穫法の地域性とその成立要因 に関する研究（福岡県・要旨）

立野喜代太

百賀茂男

1. 調査地帯区分

福岡県を9地帯に分けて調査をまとめた。

(1)北九州：鉾害田や湿田が多く生産環境に恵まれない。(2)京築：耕土が浅く、常習干ばつ地帯が多い。海岸地帯は湿田が多い。(3)筑豊：鉾害田や農業用水の汚濁などで生産環境は悪い。(4)宗像：筑後につぐ高収地帯。(5)福岡：海岸地帯の一部は砂土で、秋落、潮害をうけやすい。(6)糸島：砂壤土、砂土で生産力が低い。(7)筑後北部：筑後川その他の中小河川流域の穀倉地帯である。(8)筑後西部：クリーク地帯で高い生産力がある。(9)筑後東部：穀倉地帯である。

2. 調査の結果

(1) 刈取期：北九州、筑豊、宗像など北部地域では10月中、下旬を中心に11月上旬まで、他の京築、福岡、糸島や南部の筑後地帯では11月上、中旬が最も多い。